

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成19年10月 (2007年) No.502

超満員で大盛況だった

第47回OMC映像フェスティバル無事終了

今年は驚異的な明るさのプロジェクターを使用し、しかも大半がハイビジョン作品というプログラムご案内が効果があったのか、今年のOMC映像フェスティバルは、予想を上回る観客にご来場を頂きOMCとして誠に感激の至りでした。もっとも作品内容も会員諸氏の自信作揃いで、観客の皆様にも充分ご満足のいく映写会ではなかったかと思っております。お声を頂いた方々もたくさんのおほめ言葉を頂戴いたしました。また、玄光社のビデオサロンから一柳道隆編集長がわざわざ来阪され、最初から最後までご覧いただき、予想以上の良い映写会として印象深かったようで、ビデオサロン12月号に記事になると思います。さあ来年も今年に負けないよう各自1本ずつでもいいから、これぞ自信作という作品を作ってください。いずれにしても会員諸氏のご協力有難うございました(合原)。

■祝電を頂戴した方々：東京アマチュア映像連盟顧問 川上勝晤様、新潟アマチュア映像協会会長 川辺明彦様、東京映像会長 渡会猛様、映像神奈川会長 金子豊一、喜代子様、銚子映像クラブ会長 石毛文男様、ビデオサークル紀南会長 森祐治様、和歌山8ミリビデオサークル会長 銚崎道弘様、神戸映像会員一同様、映像銀の会様、吉岡映像設計事務所 代表吉岡博行様、以上10名様でした。有難うございました。早速お礼状差し上げました。

■ご祝儀を頂戴した方：萩巢勲様。いつもご丁寧にご有難うございます。

■予告：新年例会は会場の都合もあり1月14日(月曜祭日)の13時より例会並びに総会を開催、17時15分より例年通り新年会を開催、ご予定を。

10例会のお知らせ

10月例会は第4土曜27日午後6時から、難波市民学習センター(JR難波駅上OCATビル4階)で開催します。今年の夏は9月末まで猛暑続きでしたが、10月になってしのぎ易い季節となり作品づくりも進んでいることでしょう。作品をお持ちになってどうぞ多くの方の例会ご参加をお待ちしています。

国際コンテスト受賞

おめでとうございます

■ FISH EYE 2007 国際アマチュア映像祭ビデオコンテスト

Nature 部門 第1席

・季節は巡る裏磐梯 有村 博氏

■ 第3回アジア海洋映画祭 in 幕張

・入選 帆船に思いをはせて 藤原純三氏

例会に3倍明るい

プロジェクターが登場

従来OMC例会では800ルーメンのプロジェクターを使っていましたが、この度黒田会員のご好意で3000ルーメンを超える明るいプロジェクターをお借りすることになり、9月例会で試写を兼ねて使用いたしました。本来プレゼンテーション用に作られたものだけに、4対3画面とハイビジョン画面との切り替え時に課題があるのでは、との懸念がありましたが、一寸した要領でスムーズに切り替えることができました。また、例会場の会場の広さでは明るすぎるくらいがありましたが、これは明るさを調整できるということで、会員一同の新プロジェクター採用のご賛同を得ました。OVCと共同で使わせて頂きます。

9月例会レポート

9月例会は22日午後6時より難波市民学習センターで開催しました。上記の通り新しいプロジェクターの切替に伴い機器のセット位置を下げる等の対応で担当者は当初とまどっていましたがすぐに慣れました。

司会：有村氏、書記：安居氏、機材：河合、江村、増池の3氏、受付兼照明係：奥、渡辺の両氏。以上の担当にて会を進行。

◆出席者：有村、井上、天草、江藤、江村、岡本、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、関、玉井、西井、錦、西村、華岡、藤原、前田、増池、宮崎、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺の29氏の見学者1名。作品数は15本でした。

◆上映作品(今月の講評は安居世話役です)

1. たたり神を守り神に

安居利次さん

8分10秒

平安時代の天変地変は、当時、菅原道真のたたりだといわれていました。冤罪を理由に雷神となって災いをもたらすとして恐れられていました。それがいつのまにか豊穡の神から学問の神にかわり今日の天神祭りになりました。東京の神田祭りも京都の祇園祭りもたたり神がもて守り神になったのです。日本人のこういう考え方が面白いと思いビデオで表現しようとしたのですがうまく伝わりませんでした。失敗作です。

2. 滝のある旧き街並み

増池 茂さん

4分54秒

JR大阪駅の北西にいわゆる空中庭園展望台があります。この下、ビルとビルに囲まれた空間に「中自然」と称する人工の山谷があり煙突のような金属の筒から多量の水があふれ水煙を上げています。その横のビルの下に滝見小路というレトロな街並みがあり営業しています。ここを取材されました。「中自然」はビルの中に木々が茂り細い岩の道を歩くと不思議な気分になるところです。一方レトロな横丁には懐かしい三輪のミゼットがおいてあり、仁丹の広告が見え、一瞬タイムスリップした錯覚になります。この2つの空間を結びつける工夫があればもっとよかったのではないかと思います。

3. 吉備路合掌の里

吉岡貞夫さん

8分

日本三大稲荷のひとつ岡山の最上稲荷のビデオ作品です。稲荷は神社かお寺か疑問でしたが袈裟を着た人物や、妙教寺のスーパーがあったので本来お寺なのですね。社殿が桃太郎伝説の有名な吉備津神社に似ているのも、馬鹿でかい鳥井も明治の神仏分離の際、存続を認められた、その証にたてられたのでしょうか。お稲荷さんにお参りするときは社の外見に惑わされず柏手(かしわて)を打つのでなく手を合わせるのが正解ということなのです。それで合掌の里というタイトルがついたのですね。納得しました。

4. 東大阪おとこ節

岡本至弘さん

5分10秒

東大阪の建物やイベントに興ずる人々の表情を背景にカラオケビデオをつくられました。メロデーは中村美津子の河内おとこ

節、歌詞は岡本さんの作詞、さらに例会場にマイクを持ち込みカラオケビデオに合わせて岡本さんが歌われました。いつもと違う雰囲気になりました。「歌詞ばかり見んとビデオの背景も見てや」と岡本さん、よく見ると歌詞に合わせた背景画の出し方もかなり工夫を凝らしておられるのがわかりました。「ふるさと東大阪」に入れあげる岡本さんの熱気を感じました。

5. みちのく芸能鹿踊り (ワイド)

紙本 勝さん 8分50秒

鹿(しし)踊りというのは岩手県の郷土芸能だそうです。ししという架空の獣が農作物を目あてに山里に下りてきて人々と争う、その様を表現した芸能だということです。怖そうな面を付けカンナガラという2本の白い角(?)をつけて太鼓に合わせて踊る様は見事です。それを紙本さんは手馴れたカメラ裁きとうまい編集でまとめられているので画面から目を離すことが出来ません。しかもしし踊りには15団体もあって独自の踊り方を継承しているのだそうです。柳田国男の有名な「遠野物語」にもでてくるとか、郷土芸能を見つけ遠くまで撮影に行かれる紙本さんに脱帽です。

6. マンドリンアンサンブル演奏会 (HDV)

奥 宏さん 6分28秒

大阪狭山市文化会館での演奏会の様子です。演奏しているマンドリン奏者のカットが次々に変わります。何人かで違う位置から撮られたのをまとめて編集されたと思っていました。しかし例会場で奥さんが1カメラで撮ったとおっしゃっていたのを思い出してTELで聞いてみました。グループで撮ったからカメラは11台も回っていたが、誰ともまだテープの交換はしていない、とのことでした。だからあの場面転換は奥さんが一人で場所を変えて撮られたのです。音のつながりも違和感なくうまく編集されていて感心しました。しかし、もし誰かが11台のカメラを使って編集するとしたらそれこそ大変だろうと思います。まず奥さんのようにカメラがHDVの人と普通のDVの人もおられるのだからその辺の調整からして不可能に近いかと勝手に思ったりしました。

7. 唄い継がれる八尾の魂 (HDV)

西井 学さん 10分10秒

「おはら風の盆」の作品はいままで例会でたくさん拝見したが、今回の西井作品はある意味トップを争うものではないかという印象を受けました。全体に抑えた構成の中にタイトルの意味が沸々と感じられるものでした。後半、古謡に歌われた「お代と彦さ」の挿話を何気なく入れた辺り、考えて作られたなと感心しました。また表現する絵が豊富なことも強みです。5泊7日、長岡から車で毎日通われたという粘り強さが作品全体を支えているような気がしました。すばらしい作品でした。

8. 奈良の鹿 (HDV)

有村 博さん 6分34秒

ハイビジョンの映像はきれいです。奈良の鹿の四季を描くうえに角きりは絶対に見せたいカットです。しかしあのカットはDVの4:3の分しかありません。

そこで有村さんはハイビジョンの16:9の画面の中にDVの4:3の画面をいれられました。当然両横が黒くなります。その違和感をなくすために16:9のあまり動きのないカットを背景におかれました。枯葉や水面です。これで違和感がなくなりました。これからハイビジョンに昔撮ったDV画面を入れたいことが多くなると思います。その実験ビデオです。筆者もいろいろ試してみましたが有村さんの方法が一番無難と思います。(DV画面を拡大して横一杯にすると画質はぐっと悪くなります。)

9. スタンフォード大学ツアー (HDV)

井上勝彦さん 8分19秒

旅行された世界各地のビデオを例会で多く拝見しましたが大学ツアーははじめてです。奥さんのナレーションによってこの名門大学の歴史と現況がよくわかりました。PCで有名なシリコンバレーの中心に大学があると知りませんでした。校内は驚くほど広大で日本の大学とは全く規模がちがいますね。井上さんは留学されて大学の近くにお住みになったのですか。気候も環境もいいところでの生活はすばらしかったですよね。そして3Dの会で再び大学を訪れるとは!これから映像の世界でも新しい技術と構想で次代を築いていってください。期待しています。

10. 熊野夢幻 (HDV)

河合源七郎さん 7分50秒

タイトルの背景に出てくる花火はすごいですね。花火を打ち上げる筒を人が抱え、しかも最後はパーンと破裂した反動がその人にじかに伝わってくるのですからすごく迫力があります。熊野の花火は有名ですがその起源は先祖供養のための精霊流しの灯籠を焼くためとは知りませんでした。(これは例会後喫茶店で河合さんから聞いた話です)それで「千の風になって」の歌が流れたのです。花火の音にもかなり工夫されたという話も聞きました。歌の間に花火の生音がうまく入っていました。それらをみんな含めて「熊野夢幻」なのですね。タイトルの意味、了解しました。

11. ジャスパ国立公園 (HDV)

関 剛さん 9分

以前VIAの旅を見せていただきましたが、今回はカナディアンロッキーのジャスパ国立公園のすばらしい情景です。映像を見ながら自然に納得するのは地図を巧みに入れられたからでは、ないでしょうか、ボーベル湖、マリーン湖、アカバスカ滝と心落ち着くカットや息を呑むカットがつづきます。その時々、ちょっと間をおいて、地図がでます。その地図には2つの地点の名前しかありません。1つはいつもジャスパであり、もうひとつは映像のマリーン湖やアカバスカ滝の文字です。人の記憶とは不思議なもので美しい情景の後に地図と活字が出ると印象として固定されます。そしてトータルとして納得として受け取られるのです。これは関さんの感性でしょうか、技法でしょうか、とにかく感心しました。カナディアンロッキーのその2が楽しみです。

12. 初夏の風 (HDV)

江村一郎さん 6分

余部へ行って、こういうビデオを作られますか、というより何回も何回も余部にいかれたから出来たのだといったほうが当たっているように思いました。鉄橋を渡っている列車のカットは始めの1カットだけでした。あとは余部の町のありふれた日常の断面カットですが、その並べ方によってこうもすばらしい作品なるとは思いもかけま

せんでした。カットのつながりには、そんなに物語性がないのに見ている人を飽きさせない、これは江村さんの新しい挑戦ビデオだと思いました。

13. 夏・余部 (HDV)

前田茂夫さん 9分58秒

副題に「あまるベロマン号のある風景」とありますが、臨時列車5両連結のロマン号の鉄橋通過に絞って作品を構成されています。余部通いは江村さんより多いのではないのでしょうか、鉄道マニアである前田さん、さすが資料として後世に残る的確な印象的な動画をお撮りになっています。ある期間1日2往復するロマン号、この映像から推測すると勿論、撮影は1泊されているのでしょう。夏の余部の風景もふんだんに入っています。江村さんと違うロマン号中心の余部のすばらしい作品でした。

14. だんじり (HDV)

山本正夢さん 8分50秒

「岸和田のだんじりは撮るのが大変だ」「しかも1人で撮るのは至難のワザ」、ビデオカメラを持っている人の常識です。これに挑戦されました。秘密は小型カメラHC3をつけた3脚を上を持ち上げてお撮りになったとの事です。片手を挙げてカメラを写している他人のカットが山本さんの画面にもありましたがあれでは皆目だめだろうと思います。筆者も1脚につけたカメラにワイヤーリモコンをつけて撮ったことがあります。液晶が小さすぎるのと昼間は見えにくいのが難点でした。それにしてもよくお撮りになり、まとめられていました。

15. 住吉神社夏祭り (HDV)

天草 稔さん 9分10秒

8月1日夏祭りの日に、住吉神社の神輿が旧紀州街道沿いに大和川を越えて堺まで行く「おわたり」という行事があります。大和川の水の中で大阪と堺の担ぎ手が神輿の交代をやっていたのです。高度成長期になりますと人手不足を理由に白馬も神輿もトラック載せての行列にかわりました。それが3年前から何十年ぶりかで復活したのです。その様子を克明にお撮りになりました。大阪側からと橋を渡って堺側からも、です。暑い日だったので大変だったろうと思います。努力作です。